

肉製品、乳製品製造業における作業床、歩み板を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	18～19	工場内で荷物を運搬中に足を滑らせ転倒し、右膝皿を骨折した。	36～29	10
1	17～18	工場において、清掃作業中に右手でデッキブラシを持ち、水切り棒に交換に行く途中で、廊下のグレーチングの上で滑り、後ろに転倒し、左手をついた時に骨折した。	64～99	50
3	11～12	製品の移動中、豚モツが床に落ちているのに気づかず踏んでしまい、滑って転倒し、左肘を強打した。	54～49	30
4	10～11	工場作業場内で羊腸の脱塩作業をしていたときに、流し台（シンク）に水を引き込むホースに足を引っ掛け転倒し、ひざから地面につき骨折した。	56～49	30
5	14～15	当社加工工場冷凍庫内において、製品整理中に床が凍っていた為、足を滑らせて転倒し、左膝を骨折した。	71～49	30
9	18～19	事業所内の原料冷凍庫内にて、翌日の準備作業の為原料運搬中、足を滑らせて転倒し右手をつき、右手小指付け根付近を亀裂骨折する。当日は痛みを我慢しそのまま帰宅、翌日手首が腫れた為受診する。	59～49	30
10	18～19	3課4係の加熱ゼネレータ付近で作業していた際、加熱終了のブザーが鳴った為、右回転で振り向き操作盤に向かおうとした。その際、滑って転倒し、開いていた	48～	500

		ゼネレータの扉に右肋骨付近を強打した。		999
11	11~ 12	当社肉加工室において、肉のカット作業中、作業用まな板（高さ約90cm）上で、立ち位置の右先方にある自分の担当工程が終了した肉（カット済）を左側で作業する自分の次工程担当者側に移動させようと体の向きを変えたところ、足元が滑ってバランスを崩して尻餅をつく形で後方に転倒した際に腰を強打したため、受傷したものである。	53	50 ~ 99
11	8~9	豚の枝肉保管庫で、枝押し作業中に、排水用の溝に躓き、滑ってお尻から床に転倒した。転倒後から、腰に痛みがあり、市販の痛み止めを服用し、自己治療で痛みが治まるものと思っていたが、後日に枝肉を出している時に、強い痛みが走り、痛み止めを飲んでも効かず、病院へ受診した。	35	10 ~ 29
12	11~12	被災者は、工場のホーム上で、懸鳥の終わった空カゴの清掃をした後、下に降りて、消毒後のカゴをホームの上から下に降ろす作業中に、地面が凍結していた為、足を滑らせ後ろ側に転倒し、体を支える為に左手を地面について骨折した。	39	100 ~ 299
12	11~12	派遣先、第一製造グループ内梱包作業場にて冷凍食品の梱包作業中、梱包中の加熱用カゴが重なった状態で何ヶ所かに点在し、場所にゆとりがなく床に氷の破片も散らばっていて滑りやすい状態だった。作業終了間近で気持ちがせいていた為、振り向きざまに足を滑らせ体勢を崩した所、加熱用カゴの角部分に脇腹付近をぶつけた。	49	50 ~ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html